

を発売(1月16日)

◆農業資材:アキレスが農業用ビニールフィルム「プラチナコート」を発売
(1月16日)

◆非鉄金属:三菱マテリアルが金錫合金ペーストを開発
(1月15日)

◆電池材料:宇部興産と三菱ケミカルが中国における電解液事業合弁会社を
発足(1月15日)

◆樹脂:ユニチカが自動車ダクト部品耐熱ブロー成形用ポリアミド樹脂製品群を
開発(1月15日)

◆価格改定

- ・宇部興産がMEKオキシムを2月1日出荷分より値上げ
- ・日本板硝子が建築用板ガラス製品を3月1日出荷分より値上げ
- ・ダイセルが過酢酸誘導品のラクトンおよびエポキシの各製品群を2月1日
出荷分より値上げ
- ・東亜合成が液体苛性ソーダを2月1日出荷分より値上げ
- ・クレハが苛性ソーダを2月1日出荷分より値上げ
- ・昭和電工が複合材料用原料樹脂を2月1日出荷分より値上げ
- ・DICが有機顔料を2月1日納入分より値上げ
- ・タキロンシーアイがポリカーボネート製品全品種を2月15日出荷分より
値上げ
- ・タキロンシーアイが採光建材製品を2月15日出荷分より値上げ
- ・昭和電工がエマルジョン製品を2月1日出荷分より値上げ
- ・日本ポリプロがポリプレン全製品を2月15日納入分より値上げ
- ・大倉工業が合成樹脂製品全般を2月21日出荷分より値上げ



◆海外市場調査のWebサイト『グローバルマーティンラボ』を新設しました

<http://www.global-marketing-labo.jp>

近年のマーケティングの対象は国内市場中心からグローバル市場へと広がっ
ております。

弊社では、グローバル市場においても足で稼ぐ生きた情報を収集すべく、
充実した社内体制と外部ネットワークを構築し、多数の海外調査を実施して
おります。

『グローバルマーケティングラボ』では、工業市場研究所の海外調査の
メニューの紹介や調査実績、各国情勢コラムを掲載しております。調査実績、

海外情勢コラムは随時、更新を行っておりますので、是非、ご覧ください。

海外市場調査にご興味のある方は、TEL:03-6459-0165 又は
<http://www.global-marketing-labo.jp/contact/> までご連絡下さい。

WEEKLY NEWS

◆経営：三菱ケミカルが日本化成を吸収合併（1月29日）

三菱ケミカルは、同社の完全子会社である日本化成を本年4月1日付で吸収合併すると発表した。

日本化成は、無機化学品（アンモニア系製品、合成石英粉、電子工業用高純度薬品等）、機能化学品・化成品（紫外線硬化性樹脂、ゴム・プラスチック架橋助剤、脂肪酸アמיד、アクリレート、メタノール等）等の事業を行う、三菱ケミカルの高機能化学部門における中核グループ会社の一つである。

三菱ケミカルは、2017年1月に日本化成を完全子会社化していたが、ポートフォリオ改革の加速とシナジーの早期実現のためには、同社事業を統合することが最適であると判断したことから吸収合併としている。

◆樹脂：荒川化学工業が水素化石油樹脂の製造および販売をおこなう新会社の3社合弁契約書を締結、子会社を設立（1月29日）

荒川化学工業は、コスモエネルギーホールディングス（CEH）および丸善石油化学（丸善石化）と3社との間で進めていた水素化石油樹脂の製造および販売をおこなう新会社の設立に関して、3社合弁契約書を締結したと発表した。当該合弁会社は荒川化学工業の連結子会社となる。

新会社の名称は千葉アルコン製造、生産能力は2万トン/年、2020年末を目処に、コスモ石油千葉製油所内に設置を予定しており、隣接する丸善石化より原料、ユーティリティの供給を受けて原料油からの水素化石油樹脂の一貫生産を行う。

水素化石油樹脂は、紙おむつ等の組み立てに用いられるホットメルト接着剤の原料として、世界的に紙おむつ等の衛生材料の需要が拡大していることから、同樹脂の需要も増加している。

将来的には、さらなる水素化石油樹脂市場の伸長に応えるため、丸善石化の有する未利用留分の有効利用をさらに進めるために、新会社における水素化石油樹脂製造設備の増設に関する検討を進めていくとしている。

◆機能性化学品：日本触媒が機能性化学品プラントの増設を実施（1月26日）

日本触媒は、同社独自の機能性モノマー「VEEA」及び機能性ポリマー「エポ

クロス」、「エポミン」の旺盛な需要に応えるため、各プラント能力を現状の2～3倍に増やすことを決定したと発表した。

「VEEA」は、UV インクジェット印刷向けの反応性希釈剤として、欧米を中心に需要が拡大している。「エポクロス」は、フィルムや基材への密着性に優れるなどの特徴を有し、環境負荷の少ない水系架橋剤として、PET フィルムやコーティング材向けに需要が拡大している。「エポミン」は、優れた反応性と密着性を有し、重金属処理などの水処理剤やインク顔料の分散剤用途に需要が拡大している。

具体的な各プラントの増設計画としては、VEEA は 2019 年 12 月に完工予定で、姫路製造所にて行う。また、エポクロスは 2018 年 8 月に完工に完工予定で、姫路製造所にて行う。エポミンは 2019 年 9 月に完工予定で、川崎製造所にて行う。

これら機能性化学品で総売上高 100 億円を目指すとしている。

◆ガラス中間膜：積水化学工業が欧州における合わせガラス用中間膜および原料樹脂の生産能力を増強（1 月 25 日）

積水化学工業は欧州の合わせガラス用中間膜の製膜工場（オランダ・ルールモンド市）に「新製膜ライン」を（自動車 700 万台分/年の生産能力増強）、原料樹脂工場（オランダ・ヘレーン市）に「新樹脂ライン」を増設すること（従来比 1.7 倍の生産能力増強）を決定したと発表した。

合わせガラス用中間膜は、フロントガラスのみならずフロントサイドやルーフなど使用される部位が広がることから、自動車生産台数を上回る需要拡大が見込まれている。さらに、遮音や遮熱、ヘッドアップディスプレイ（HUV）対応など高い機能を付加した中間膜については、年率 5% 以上の高い成長率で推移すると同社では考えている。

今回の生産能力増強にかかる投資額は約 200 億円で、新製膜ラインは 2019 年度下期、新樹脂ラインは 2020 年度上期の稼働を予定している。また、新製膜ラインでは、速度などの情報をフロントガラスに投影する HUD 用くさび形中間膜を中心に生産する計画としている。

◆防虫機能素材：三菱ケミカルが新たに防虫機能素材を開発（1 月 24 日）

三菱ケミカルは、新たに防虫機能素材「クリーンライフ Neo（ネオ）」を開発したと発表した。

開発品は、防虫忌避剤として安全性が高いとされるピレスロイド様化合物（一般名：エトフェンプロックス）を採用し、ポリプロピレンマルチフィラメント「パイレン」の繊維中に練り込むことにより忌避持続性に優れていることが特長の防虫

機能素材である。「パイレン」が得意とする資材分野を中心に 2018 年から原糸販売を開始する。

主な用途としては、自動車用防虫ネットをはじめ、農業用ネット、アウトドア・エクステリア向けメッシュ素材及び、生活雑貨、カーペット等、マルチフィラメントの特長である柔軟性を生かした幅広い用途への素材提案を進めていくとしている。

◆電子材料：東レが岐阜工場で MLCC 離型用フィルムの生産を開始
(1 月 23 日)

東レは、岐阜工場で MLCC (積層セラミックコンデンサー) 離型用フィルム『ルミラー』の生産開始を決定したと発表した。

MLCC は、通信機器、家電、自動車用等、電気で駆動するすべての機器に搭載されており、通信の高度化や、自動車への搭載個数拡大により、年率 10%以上の成長が見込まれている。東レは三島工場、マレーシア、韓国に加えて、離型用フィルムの消費地である日本での新たな拠点として岐阜工場での生産開始を決定した。

今回、11 億円を投じて既存の設備を改造し、本年 9 月から日本での生産能力を 30%増強するとしている。

◆半導体材料：昭和電工がパワー半導体用 SiC エピウェハー 高品質グレード品の生産能力の追加増強を決定(1 月 23 日)

昭和電工は、パワー半導体の材料である炭化ケイ素 (SiC) エピタキシャルウェハー (エピウェハー) の高品質グレードエピウェハー「ハイグレードエピ (HGE)」について、現在進行中の生産能力増強に加え、さらなる増強を決定したと発表した。

SiC パワー半導体は、従来の電源用途に加え、車載への実装に向けた動きが具体化しており、鉄道車両のインバータモジュールの他、急速に伸長する電気自動車市場においても、車載充電器や急速充電スタンドで SiC パワー半導体への切り替えが進んでいる。昭和電工の SiC エピウェハー事業は、業界最高水準である HGE の欠陥密度の低さと高い均一性が評価され、市場成長を上回る伸びを示している。

昭和電工では、2017 年 9 月に生産能力の引き上げを決定しており月産能力は本年 4 月に現在の 3,000 枚から 5,000 枚に拡大するが、今回の追加増強により本年 9 月には 7,000 枚まで到達するとしている。

◆繊維：旭化成がナイロン 66 繊維「レオナ」の生産設備増設を決定(1 月 19 日)

旭化成の繊維事業本部では、宮崎県延岡市においてナイロン 66 繊維「レオナ」の生産設備増設を決定したと発表した。

旭化成のナイロン 66 繊維「レオナ」は、エアバッグ向け原糸やタイヤの補強材として、自動車産業を中心に広く工業資材分野に採用されており、品質の高さが評価されている。近年「レオナ」の主力用途である自動車用エアバッグは、アジア地区での自動車生産台数の増加、および各国での安全に対する要求の高まりにより、搭載率が上昇しており、今後も成長が見込まれている。このような背景から、今回生産設備の増設を決定した。

旭化成では、増設能力は約 5,000 トン／年（現有能力は約 33,000 トン／年）で、本年 2 月着工予定、2019 年度上期稼働開始予定としている。

◆半導体材料：凸版印刷が中国・上海工場に最新鋭設備を導入し、アジア最先端フォトマスクの生産体制を強化（1 月 19 日）

凸版印刷は、半導体用フォトマスクの製造を手掛ける Toppan Photomasks Inc.（本社：米国）の生産子会社である上海凸版光掩模有限公司（本社：中国、以下 TPCS）の建屋内に、最先端フォトマスクの量産に対応した設備投資を決定、2018 年秋までに順次、最新鋭設備の導入することを発表した。これにより、まず 2018 年 4 月から 65/55nm フォトマスクを、2018 年度中に 14nm フォトマスクの生産を開始する予定である。

今回、TPCS に最先端フォトマスクの生産設備を新たに導入することで、従来品から最先端品、さらに短納期対応が求められる保護膜（ペリクル）の貼り替えまでの一貫生産が可能となる。

凸版印刷は本設備投資により中国での最先端フォトマスクの生産を強化、既存の日本・台湾の生産拠点と総力を結集し、アジア市場で 2020 年に約 450 億円の売上を目指す。

また、今後も 10nm 以降の次世代フォトマスクの製造のほか、7nm 世代からの採用が見込まれる EUV マスクなど最先端品の開発を続け、世界的に好況な半導体市場での競争優位性を維持していくとしている。

◆エラストマー：三菱ケミカルがスチレン系熱可塑性エラストマー（TPS）のタイでの製造を開始（1 月 19 日）

三菱ケミカルは、タイにある子会社の三菱ケミカルパフォーマンスポリマーズ タイランドにて、本年 1 月より、スチレン系熱可塑性エラストマー（TPS）の製造を開始したことを発表した。

同社の TPS は、自動車・建材・電子部品・食品・医療などの幅広い分野で採用されており、これまで日本、中国、米国、欧州、ブラジルにて製造を行ってき

た。これまで、東南アジアについては、域外で製造した TPS を輸出する形で製品を供給していたが、近年、自動車・食品分野等を中心に TPS の需要が高まっており、今後も拡大することが見込まれている。

同社では、こうした旺盛な市場要望に対応することを目的に、需要地により近いタイにおいて TPS の製造を開始するとしている。

◆樹脂ガラス:大日本印刷が電気自動車向け曲面樹脂ガラスを開発
(1月17日)

大日本印刷は、曲面加工性に優れ、自動車などの湾曲したリアウィンドウなどに最適な軽量の樹脂ガラスを開発したと発表した。

同製品の特徴は、最大半径 30mm までの曲げ加工が可能であり、重量は一般ガラスの半分でガラスと同等の透明性を保持している。また、耐衝撃性が高く、一般のガラスと比べて割れにくいいため、安全面でも優れているという特徴を有している。

同社では、本製品の自動車等への提供を進めるとともに、ルーフスポイラーやテールランプカバーなどの機能部品を一体成形した樹脂ガラス製リアウィンドウの展開を目指して、電気自動車等の軽量化ニーズに対応していく。

この曲面樹脂ガラスを、自動車やバス、鉄道車両などのモビリティ用途に向けて販売し、2020 年度に年間 50 億円の売上を目指すとしている。

◆成型加工:住友ベークライトが強化プラスチック製品と熱硬化性コンポジット用途の共同開発契約を締結(1月17日)

住友ベークライトは、GRIP Metal Limited 社(カナダ)と革新的な軽量コンポジットの用途開発を行うべく昨年 12 月に共同開発契約を締結したことを発表した。

GRIP Metal は、ブレーキパッドの摩擦材と鉄製バックングプレートを機械的に結合させる金属表面加工技術「NRS テクノロジー」をベースにした製品である。GRIP Metal と熱硬化性コンポジットを組み合わせることで、コンポジット単体ソリューションに対する優れた堅牢性と耐久性を可能にする。

GRIP Metal 技術を、宇部興産が取り組んできた熱硬化性コンポジットの複合成形技術に取り組むことで、これまで熱硬化性コンポジット単体では手が届かなかった用途の中から、重量低減効果がより顕著な軽量化を見込める新たな市場機会を模索していき、自動車製品に加え、熱硬化性コンポジット・ソリューションが価値を向上させうる航空宇宙関連・建物インフラの市場を開拓していくとしている。

◆発泡樹脂:カネカがベルギーでビーズ法発泡ポリオレフィンの生産能力を強化

(1月17日)

カネカは、欧州地域での自動車部材などの旺盛な需要に対応するため、Kaneka Belgium N.V.のビーズ法発泡ポリオレフィン(製品名:エペラン、エペラン-PP)の生産設備増設を決定したと発表した。

生産能力を約50%増強するとともにプロセスの自動化によるコストダウンや高機能性ビーズの量産化を目指す。投資額は約20億円、2019年春の稼働を予定している。

英国やフランスでは2040年以降のガソリン車、ディーゼル車の販売禁止が決定され、電気自動車の普及促進に積極的に乗り出している。これに対し自動車メーカー各社は走行可能距離を延ばす軽量化素材の採用を積極的に進めており、自動車部材として軽量性と耐衝撃性を合わせ持つ発泡ポリオレフィンの市場は今後も高い成長が見込まれている。

また、同社独自技術に基づく難燃特性などを付与した高機能性ビーズを積極的に市場投入することで、さらなる事業拡大を図っていくとしている。

◆**歯科材料**:クラレノリタケデンタルが30分で焼成可能な<ジルコニアブロック>を発売(1月16日)

クラレノリタケデンタルは、高い透光性となめらかなグラデーション持つ歯科切削加工用セラミックス<カタナ ジルコニア ブロック>を、歯科医院向けに発売すると発表した。

同品は、デンツプライシロナ社の歯科医院向けCAD/CAMシステム「セレック」用に開発したフルジルコニアクラウン等に使用できる材料であり、切削15分、焼成30分で歯の補修部分に被せるクラウン等の焼成が終了し、短期間でのジルコニアクラウン等の完成を可能にする。

クラレノリタケデンタルは、<カタナ ジルコニア ブロック>の販売目標を数年後に10億円としている。

◆**農業資材**:アキレスが農業用ビニールフィルム「プラチナコート」を発売(1月16日)

アキレスは、フィルム表面に特殊なコーティングを施し、ベタつきを大幅に抑えた農業用ビニールフィルム「プラチナコート」を本年4月2日から発売することを発表した。

農業用ビニールフィルムのベタつきは、ビニールハウスの展張作業や換気作業などの際に大きな課題となっている。新製品の「プラチナコート」は、同社のコーティング技術により、ベタつきの原因となる成分のフィルム表面への移行を防止し、更にコーティング層に特殊な処理を施すことで、ベタつきを大幅に抑えてい

る。また、汚れが付着しにくくなるため、ビニールハウスの透明性を向上させる。

アキレスでは、ビニールハウスの換気・作業性を改良した「プラチナコート」を発売し、農業関係者に提案していくことで、農作業の効率向上に貢献していくとしている。

◆非鉄金属：三菱マテリアルが金錫合金ペーストを開発（1月15日）

三菱マテリアルの電子材料事業カンパニーは、世界で初めて洗浄工程を必要としない金錫合金ペーストを開発し、サンプル出荷を開始したことを発表した。

金錫合金ペーストを用いた接合では、金錫合金の粉末表面及び接合面の酸化膜を除去して、粉末表面と接合面との濡れ性を高める必要がある。従来品ではこの酸化膜除去の役割を、高耐熱ロジンをベース剤にしたフラックスが担っていた。しかし高耐熱のため、熱処理工程後に接合面の腐食等の不具合の原因の1つとなる残渣が発生してしまう。

今回の新製品は、熱処理後のフラックス残渣が大幅に低減され、洗浄工程が不要となっている。今後同社では、同製品を高輝度LEDヘッドランプや殺菌用UV-C LEDランプなどの高い放熱性と接合後の信頼性を要求される用途へ展開し、2022年には年間25億円規模の売上げを目指すとしている。

◆電池材料：宇部興産と三菱ケミカルが中国における電解液事業合弁会社を発足（1月15日）

宇部興産と三菱ケミカルは、2016年10月に両社の中国におけるリチウムイオン電池用電解液事業を合弁形態で運営することを発表していたが、中国及び関係各国における競争法の手続きが完了し、本年1月より合弁会社の運営を開始したことを発表した。

合弁会社の会社名は常熟宇菱電池材料、資本金は159百万人民元（宇部興産：50%、三菱ケミカル：50%）である。

中国における当該合弁会社の運営において両社の知的財産や開発力を活用することで、技術力とコスト競争力を更に強化していく。また、グローバルでの電解液事業の提携についても引き続き検討していくとしている。

◆樹脂：ユニチカが自動車ダクト部品耐熱ブロー成形用ポリアミド樹脂製品群を開発（1月15日）

ユニチカは、様々なブロー成形工法や自動車ダクト部品の性能要求に適用可能な、ブロー成形用ポリアミド樹脂製品群を開発したと発表した。

本開発品は、ポリアミド6樹脂、ポリアミド66樹脂、高耐熱ポリアミド樹脂「XecoT」の3種の樹脂をベース樹脂として選択できるため、様々な耐熱要求に

対応可能となっており、エンジン吸排気系を中心に様々な用途展開が考えられる。また、高耐熱ポリアミド樹脂「WecoT」は耐熱性以外にも優れた耐薬品性や冷却水に対する耐久性(LLC 耐性)から、エンジン冷却水の配管などにも適した材料になる。

本開発品は、主たるアプリケーションである自動車エンジン部品の吸排気用を中心としたダクト・配管向けに、製品開発・用途開発を積極的に進め、2022年度に10億円の販売を目指すとしている。

◆価格改定

- ・宇部興産がMEKオキシムを2月1日出荷分より値上げ
値上げ幅は、国内向け:40円/kg、海外向け:US\$0.35/kg
- ・日本板硝子が建築用板ガラス製品を3月1日出荷分より値上げ
値上げ幅は、板ガラス製品、鏡製品:10~15%、
建築用機能ガラス製品:7~10%
- ・ダイセルが過酢酸誘導品のラクトンおよびエポキシの各製品群を2月1日出荷分より値上げ
値上げ幅は、個別に対応
- ・東亜合成が液体苛性ソーダを2月1日出荷分より値上げ
値上げ幅は、20円/kg(固形換算)以上
- ・クレハが苛性ソーダを2月1日出荷分より値上げ
値上げ幅は、30%以上
- ・昭和電工が複合材料用原料樹脂を2月1日出荷分より値上げ
値上げ幅は、不飽和ポリエステル樹脂:25円/kg
ビニルエステル樹脂:45円/kg
- ・DICが有機顔料を2月1日納入分より値上げ
値上げ幅は、アゾ顔料:100~150円/kg、キナクリドン顔料:200円/kg
ジオキサジン顔料:500円/kg
- ・タキロンシーアイがポリカーボネート製品全品種を2月15日出荷分より値上げ
値上げ幅は、15%以上
- ・タキロンシーアイが採光建材製品を2月15日出荷分より値上げ
値上げ幅は、15%以上
- ・昭和電工がエマルジョン製品を2月1日出荷分より値上げ
値上げ幅は、エチレン-酢酸ビニル系:16円/kg
酢酸ビニル系:14円/kg
- ・日本ポリプロがポリプレン全製品を2月15日納入分より値上げ

値上げ幅は、25 円/kg以上

・大倉工業が合成樹脂製品全般を2月21日出荷分より値上げ

値上げ幅は、原反製品:3.0 銭/CC 以上(ポリエチレン・ポリプロピレン製品)

二次加工製品:15%以上



株式会社 工業市場研究所

TEL:03-6459-0165 FAX:03-5408-1584

〒105-0003 東京都港区西新橋 3-6-10 マストライフ西新橋ビル

<http://www.kohken-net.co.jp>

◆メールの設定により、読み難くなる場合がございます。ご容赦ください。

◆配信停止・ご意見・お問い合わせはこちらへ h-ikeda@kohken-net.co.jp

